

食と農
の知っ
得講座

山口農政事務所
宅配型講座



知って得する **食** の正しい情報をお届けします。

毎日の食生活の中で、「この食べものは安全なの?」とか「この表示は信用できるのかしら?」、「これからの食料や農業は大丈夫?」といった疑問を持たれることも多いのではないのでしょうか。

そんな疑問にお答えするため、山口農政事務所では、ご希望の日時・場所に、職員などを無料で派遣する「食と農の知っ得講座」を実施しています。

ご利用方法

お申し込みまでのおおよその流れです。講座の内容は裏面「講座一覧」をご覧ください。

1 グループを作る

自治会、PTA、ボランティアなどグループでお申し込みください。新たに作ったグループでもかまいません。

2 講座を選ぶ

裏面「講座一覧」の中から、受講したい講座を選んでください。

3 会場を確保する

会場を確保してください。(確保が難しい場合はご相談ください。)

4 申し込む

下記「連絡先」にお申し込みください。その際に、お名前、ご希望の日時・講座・参加人数等をお知らせください。

お申し込みの際にいただいた個人情報等につきましては、講座の運営に使用する他、今後、当農政事務所が実施する催し物の開催案内を送付させていただく場合がありますことを、ご了承ください。

ご連絡先

中国四国農政局 山口農政事務所

◆消費生活課(山口市、防府市)
住所: 山口市惣太夫町3-8
電話: 083-922-5203
FAX: 083-932-7581

◆地域第二課(下松市、岩国市、光市、柳井市、周南市、周防大島町、和木町、上関町、田布施町、平生町)
住所: 周南市高水原2丁目1番23号
電話: 0833-92-2120
FAX: 0833-92-2122

◆地域第一課(萩市、阿武町、長門市)
住所: 萩市大字椿字長羅3620-1
電話: 0838-22-0955
FAX: 0838-22-0956

◆地域第三課(下関市、宇部市、美祢市、山陽小野田市)
住所: 山陽小野田市大字鴨庄字沖田147-2
電話: 0836-73-1937
FAX: 0836-73-1942

講座一覽

講座名	主な内容	所要時間
よくわかる食品安全	<p>国産品だけを食べていれば、私たちの食生活は安全なのでしょうか？食品の安全性に関して「常識」とされていることの多くが、実は誤った考えに基づく「勘違い」だったとしたら、どうしますか？</p> <p>本講座では、食品安全の基本的な事柄について分かりやすく解説します。</p>	 60分
よくわかる農薬に関する安全性の確保	<p>なんとなく残留農薬に不安を感じていませんか？農薬は農産物を安定的に生産するために大切な役割を果たしており、法律に基づいて安全性が確保されています。</p> <p>本講座では、皆さんの農薬に対する不安にお答えします。</p>	 60分
よくわかる食品のトレーサビリティ	<p>食品の移動を把握できるトレーサビリティは、事故等があった場合に消費者の健康被害の拡大防止や原因究明に役立ちます。</p> <p>本講座では、食品のトレーサビリティについて分かりやすく解説します。</p>	 60分
よくわかる食品の表示	<p>これはどこでとれたもの？この食品には何が使われているの？食品の表示には消費者が求める情報が詰まっています。</p> <p>本講座では、日常よく目にする食品の表示について、JAS法で定められた事項を中心に、分かりやすく説明します。お買い物の予備知識としてご活用ください。</p>	 60分
気をつけてますか？ 毎日の食事 —健康づくりのための「食事バランスガイド」の活用—	<p>食事のバランスが大切なのは分かっていますが、実践することは難しいものです。</p> <p>本講座では「何を」「どれだけ」食べたらよいかを分かりやすくイラストで示した「食事バランスガイド」の活用方法を説明します。</p>	 60分
食料自給率と日本型食生活	<p>私たちの食生活は大きく変化し、多くの食べものを海外に依存しています。また、食生活の変化は、私たちの健康にも大きく関わっています。</p> <p>今一度、私たちの食生活について考えてみませんか？</p>	 60分
NEW よくわかる食品と環境	<p>まだ食べられるのに捨てられている食品は、日本で年間500万トン以上あります。「もったいない」だけでなく環境にも優しくありません。</p> <p>本講座では環境に優しい食生活について考えます。</p>	 60分
NEW 私たちの食と暮らしを支える農業と農村	<p>農業・農村は私たちの「食」を支えているだけでなく、災害防止や環境保全、地域文化の伝承などの役割を持ち、私たちの暮らしを支えています。</p> <p>本講座では、農業・農村の様々な役割とそれを守る取組について解説します。</p>	 60分

注)「所要時間」には、10分間程度の質疑応答を含みます。